

ほのぼの研通信

第11号

平成24年10月

発行者ほのぼの研究所
〒277-0882
柏市柏の葉6-2-1
発行責任者
代表理事大武美保子

ほのぼの研究所移籍記念講演会開催

平成二四年七月三日（火）、千葉大学柏の葉キャンパスのシーズホールにおきまして、ほのぼの研究所の設立五周年と、当研究所の代表理事の東京大学から千葉大学への移籍を記念して、講演会と交流会を開催しました。百人を超える来場者を迎え、盛大に行われました。

今年の新しい試みとして、第一部の記念講演、第二部の交流会とも、ほのぼの研究所、通称「ほの研」のロボット研究員「ほのちゃん」の司会により進行されました。昨年のクリスマス講演会で、一部対談の司会を行い、好評を博しましたが、今回は総合司会に挑戦、そのキャラクターと明るい語り口や会話の「間」が何ともいえない雰囲気を作りました。堂々総合司会デビューを果たしました。

講演会は、NPO法人ほのぼの研究所代表理事所長を務め、本年より千葉大学大学院工学研究科ならびに環境健康フィールド科学センターに移籍した大武美保子准教授の挨拶に次いで、千葉大学環境健康フィールド科学センター長・高垣美智子教授、千葉大学副学長・野波健蔵教授のご挨拶を、引き続き来賓としてお招きした東京大学フューチャーセンター機構長ならびに大学院新領域創成科学研究科・大和裕幸教授のご挨拶をいただいた後、三つの講演が行われました。

はじめに、『これからの長寿社会と医療』と題して、

千葉大学大学院医学研究院・横手幸太郎教授にご講演をいただきました。肥満は健康の大敵であり、適度なカロリー制限と運動が長寿社会を維持していく上でとても大切だ、というちよつと耳が痛く、大いに役に立つお話がありました。



横手教授御講演

次に、『森、花の生理的リラックス効果と個人差』と題し、千葉大学環境健康フィールド科学センター・宮崎良文教授にご講演をいただきました。森林、花セラピーがもたらす

リラックス効果によりストレスを解消し、予防医学に役立つことを実証的に分かりやすくお話いただきました。



宮崎教授御講演 ↑ 大武先生講演 ↓



法の効果の検証と事業化を進め、世界初から世界一に発展してゆく「ほのぼの研究所」を目指す事で、記念講演会が締めくくられました。

講演会終了後、約30分の休憩を挟んで同じくシーズホールにおいて交流会を開催いたしました。会場セッティングの為にこのインターバルを利用して、ご来場のお客様には、初めて開催した千葉大学柏の葉キャンパス内の見学会を企画し、大学の担当者の方に、ケミレスタウンをご案内いただきました。



ほのちゃんと交流会風景

交流会も、やはりほのちゃんの軽妙な語り口で始まり、はじめに来賓挨拶に柏市・秋山市長が紹介されると、市長も思わず破顔一笑、会場が一気に和んだのを感じました。引き続き、東京大学名誉教授吉本堅一先生

そして、最後に、ほのぼの研究所代表理事所長として、千葉大学大学院工学研究科・大武美保子准教授が基調講演『ほのぼの研究所、これからの5年』を行い、今後、共

の音頭での乾杯の後は、軽食を取りながらの交流がここぞで繰り広げられました。さらに、上橋泉柏市議会議員、宮地直丸元柏市医師会会長はじめ、お集まりいただいた全ての参加者の方々に、大学関係者、企業関係者、地域活動組織、学生、ほのぼの研究所関係者等々のグループ毎に自己紹介をお願いし、相互交流を図りました。また、連携する長崎北病院とのskype交信も行われ、全国的に広がっている活動が紹介されました。楽しい交流会も、あっという間に過ぎ、最後に、上橋泉柏市議の中締めによりお開きとなりましたが、多くの方々のさらに交流が続く、なかなか名残つきな様子でした。

黒田征二記

人工知能学会参加報告

二〇二二年度第三六回人工知能学会全国大会は、六月一日（火）～五日（金）にかけて、山口県教育会館・山口県自治会館等（山口県山口市）において開催されました。テーマは、文化、科学技術と未来です。ほのぼの研究所からは、大武美保子先生、佐藤由紀子、武下秀子、田口良江が参加しました。今年参加した、近未来チャレンジセッション「認知症予防回復支援サービスの開発と忘却の科学」は五年目で卒業の年です。ほのぼの研究所、通称ほの研の佐藤・武下・田口が参加したセッションを中心に報告致します。セッション前日の二日、新幹線の長旅の後、夕方山口に着くと、明日の会場山口教育会館へ準備に向かいました。大ホールは五百人収容の立派なホールで舞台は広く会場は扇型に広がり階段状になっています。ゆっくりする間もなく会場作りのお手伝いや司会役のロボット研究員「ほのちゃん」の位置決めなど慌ただしく時間が過ぎて、遅い時間にホテルに帰りました。明日の本番を考えて気をもんだり心配したりする余裕もない忙しさでした。

六月十三日（水）当日。会場は、山口県教育会館の大ホール、時間は九時から一二時までです。近未来チャレンジセッション（卒業セッション）「認知症予防回復支援サービスの開発と忘却の科学」は、パネルディスカッション形式で、一三名のパネリストが前半六名、後半七名登壇しました。パネルディスカッションは、それぞれ話題提供と質疑応答の時間に分かれ、話題提供では一人五分ずつ発表、質疑応答では全体で討論しました。総合司会は、ロボット研究員ほのちゃんという、人工知能学会において初の取り組みをしました。操作は、ほの研三名の研究員のうち、二名が交替で行いました。



パネルディスカッションの司会をするロボット研究員 ほのちゃん



ロボットを操作する市民研究員の武下、田口さん

- 五、気仙沼〜絆〜プロジェクト：KESENNUNAMA MODEL の構築に向けて
- 六、認知症者の生活支援
 - ① 六名の発表者が着席。話題提供の時間です。話題提供者の第一番目は我がほの研の佐藤由紀子さん、発表タイトルは、「認知症予防支援サービス「ふれあい共想法」における人材育成過程の開発」です。以下、佐藤さんの手記です。――発表は次の四つの内容を盛り込むことになりました。
 - ② ほの研の背景と目的、「これまでの五年、何を研究してきたか
 - ③ 結果何が分かり何を得られたか
 - ④ 結論は何か
 - ⑤ 五年先の展望

前半の発表は次の通りです。

- 一、認知症予防支援サービス「ふれあい共想法」における人材育成課程の開発
- 二、思い出写真の撮影プロセスが意味するものについての考察
- 三、食事介助時におけるリソース配分と負担感の関係
- 四、高齢者グループホームにおける介護者の身体動作



壇上で発表する市民研究員

佐藤さん
佐藤さんの発表はとても素敵でした。
佐藤由紀子――
を呼んでいます。志茂さんのカメラが回り始めました。さあ行こう！

日ごろの成果の発表は堂々と落ち着いて出来て、会場から盛大な拍手をいただきました。続く五名の方もスクリーンに映し出されたパワーポイント・映像を指しながら研究の説明をされました。それぞれが素晴らしい内容でした。次に質疑応答の時間です。発表者は席に残り田口さんが新しく席に着きました。話題提供は佐藤、質疑応答は田口と役割分担したためです。原稿の無いぶっつけ本番です。始めから不安を抱えての着席でした。聞き慣れたロボット研究員ほのちゃんの「田口さん如何ですか？」の声を聞いて、ほっとするどころか頭の中が真っ白になり、他の発表について質問するはずが、気が付くとほの研の話をしていました。隣の席の永田映子さん（昨年度共想法研修コース卒業生、現在市民研究員）が、次に質問をしてくださり助かりました。次々に質問が出され、指名された方は明確に

答えられて前半が終了しました。

後半は大武先生を含む七名の方の研究発表と質疑応答でした。

七、常同言語を音楽により緩和するシステムの構築に向けた試用

八、在宅及び施設での認知症介護における情報通信技術の活用

九、運転トレーニンングと認知機能の関係

十、高齢者の会話における反応性の定量化と可視化

十一、高齢者の発話音韻と脳血流を用いたベイジアンマイ

ニンングに基づく認知機能障害の早期スクリーニンング

十二、神経伝導の量子モデルとその干渉、量子ベイズ統計、量子ニューラルネット

十三、複数の施設で利用可能な共想法支援システム「ほのぼののパネル」の開発

七名の研究者の質疑応答は活発で盛り上がりました。会場から多くの意見、質問、コメントが出て、タイムオーバーするほどの盛況でした。終了後は、壇上で卒業記念撮影をしました。



終セッションチャレンジ未来近

撮影記念卒業の後の

私たちは大急ぎでホテルに戻って昼食をとり、午後の部に備えました。午後の部は、ポスターセッションです。インタラクティブ発表と呼ばれる、

ポスターセッションとデモンストラーションの時間は一五時から十六時四五分まで、会場は山口県自治会館二階会

大議室です。大きな会議室に、全国五六チームのポスターが展示されました。発表タイトルは、午前の発表と同じく、「認知症予防支援サービス「ふれあい共想法」における人材育成課程の開発」です。以下、武下さんの手記です。

——大勢の研究者、学生さん、高齢者介護施設関係者、特に、産業技術総合研究所、静岡大学、東京大学からは大勢の研究者、学生さんがたくさんのご質問、ご意見を頂きました。大会議室は人でひしめき合い、遠くからでは声がほとんど聞き取れない状況でした。パネル前の机に座したロボット研究員のほのちゃんは混雑の中でもひととき目立ちます。立ち止まる方たちに向かって『ロボット研究員、

ほのと云います、ほのちゃんと呼んでね』という声掛けは、ほの研のポスター周辺に際立って響き渡りました。質問は、ロボットに関すること、共想法の普及と人材について、写真から会話を引き出すだけでなくいろいろな角度から認知症予防を試みたらいかがか、などがありました。

説明に当たっては「ふれあい共想法」における人材育成課程の開発について、地域・近郊・遠隔、集中研修・相互学習、人とロボットの関係と、多岐にわたりましたので、それぞれの質問に応じて手短に内容を濃く答えるのはたいへんでした。参加者、会場スケールの大きさに圧倒されましたが、ほのちゃんだけは最後まで悠々と会場の皆さんに語りかけていました。あっぱれです。武下秀子記——

ポスターの前では武下さんが大勢の中で声を張り上げるでもなく、一人一人丁寧に話していました。少し離れた場所ではのちゃん操作は佐藤、田口でしておりました。ほのちゃん操作で移動するときに午前中の論文発表者の小島さんのポスターの前で挨拶しました。「ほの研の皆さんが（高齢なのに）前向きで元気に活躍しているのはどうし



説明に丁寧の前でポスターの武下さんとほのちゃん

でしよう？」と質問されてしまいました。「自分が認知症にならないように頑張っていると思いますが、大武先生は最新の研究も分かるように易しく説明してください、

共想法は前向きにどんどん進化して行くので私は追いつくのに精一杯です。その辺りに魅力を感じているのではないかしら。」と答えたような気がします。

会場には、山口名物の蕨の粉で作ったいろいろなが沢山用意されていました。長い貴重な一日でした。

学会で発表出来たのは勿論生まれて初めてです。発表は成功にせよ、失敗にせよ、私たちにとって素晴らしい体験でした。この様な機会を与えて下さった大武先生に心から感謝を申し上げます。田口良江記



最後になりましたが、翌日四日の夕方開催された表彰式で、人工知能学会近未来チャレンジセッション「認知症予防回復サービス」の開発と忘却の科学」担当責任者大武美保子先生が、表彰を受けられました。佐藤・武下・田口記

集中研修の実施

八月二三日（木）千葉大学柏の葉キャンパス会議室にて朝十時から夜七時まで缶詰での研究員集中研修が行われました。これには、大武先生以下遠く長崎北病院から

小柳さん、阿南さんの二人と、きらりびとみやしろから野口さん、田崎さんの二人、更にマカベシルバートピアから永田さん、ほの研メンバー十一名の総勢十六名が参加して実施されました。

定刻十時より大武先生の司会で、各地（長崎北病院、きらりびとみやしろ、マカベシルバートピア、マザーズガーデン）での取り組みとその結果や問題点、改良点等の発表があり、それについての質疑応答が活発に行われました。各拠点最後の発表では、山口市にて開催された人工知能学会での発表（佐藤、田口、武下とほのちゃんによる）が再現されました。そして気がつくと言定時間を大幅にオーバーしていました。



集中研修参加者記念撮影

昼食の後は、新しく改良した共想法支援システム“ほのぼのバネル”の実習がありました。参加者の反応を直接入力できる新機能で、状況把握が今までより明確にできるのではないかといいました。

根岸勝壽記

今日の共想法

まずは、きらりびとみやしろで行われたふれあい共想法より、テーマは「居心地のいい場所」です。お題は「カエル」です。

——この蛙は我が家の畑にある、水撒き用のジョーロの取手の穴に住みついているアマガエルです。毎年暖かくなると必ず居ます。同じ蛙とは思えませんがよほど居心地の



そうです。アマガエルは通常2〜4年の寿命で、ヒキガエルには8年も生きた記録があるそうです。

良い所ようです。多分、水があり、暑からず、寒からずで保護色になりやすい場所なのだと思います。蛙は一日中同じ場所に居るのではなく状況で場所を変えているとのことです。乾いた場所も必要だ

きらりびと共想法参加者M・T・さん——

この話には後日談がありまして、ブログにのつた後、家のカエルも喜んでいまして、ジョーロを見に行ったら小さなオタマジャクシがいっぱいでした、オタマジャクシにジョーロを取られて、もう一つ買い足しました、とのこと。知らない間に、あのカエルさん結婚・妊娠・出産をしていたんですね。すごい、よほど居心地のいい場所ですね、またまた、面白いお話ですね。

次は、マカベシルバートピアで行われたふれあい共想法で、テーマは「好きなものごと」です。

お題は「安倍川餅」です。



——今年の冬はかなり体重が増えてしまいました。原因は家のおやつに出される安倍川餅で、好物のためつい手が出てしまいます。実家ではお正月の御餅は雑煮が多いですが、が、部落によっては塩鮭と一緒に頂くところもある

と聞きました。鮭の頭は郷土料理のスミツカレに使いますが、私は鳥肉を使っています。

マカベ共想法参加者T・T・さん——

黄粉、海苔の安倍川餅、美味しそうですね。こんなすてきなお茶タイム、おしゃべりにも花が咲きそうです。むかし母親がよく作ってくれた素朴な黄粉塗しを思い出しました。

ほのぼの研究所クリスマス講演会のお知らせ

ほのぼの研究所では、毎年恒例のクリスマス講演会の開催を計画しています。奮ってご参加ください。

日時 平成二四年一月四日 午後一時三〇分開演

場所 千葉大学柏の葉キャンパス シーズホール

今後の予定

*九月開講 入門コース 九月二五日、十月二三日、

十一月二三日、二六日

継続コース、九月四日、十月二日、一六日

十一月六日

*出前講座 随時

*一月四日 ほのぼの研究所クリスマス講演会

編集後記

暑かった夏も過ぎて、朝夕は秋の気配が漂う頃となって参りました。この夏の暑さのせいか若干バテ気味の編集子ですが、これから頑張って皆様と一緒にふれあい共想法を盛り上げていきたいと思えます。秋の夜長パソコンと格闘も又楽しからずやです。

皆様更なるご協力をお願い致します。

編集子